



毎月第1・第3日曜日発行
広報みたかはシルバー人材センターの会員がお届けしています。

発行:三鷹市/編集:秘書広報課
〒181-8555 三鷹市野崎1-1-1
法人番号:8000020132047

市役所代表電話

☎0422-45-1151(代)

ホームページ
(パソコン・スマートフォン用)

http://www.city.mitaka.tokyo.jp/

携帯サイト

http://www.city.mitaka.tokyo.jp/i/



今号の紙面から

- 『公園・緑地の適切な活用に向けた指針(仮称)』(素案)のパブリックコメントを実施します 2面
- 市庁舎・議場棟等の建替えに向けたワークショップを開催します 2面
- 市からのお知らせ 7面から
- 三鷹産キウイフルーツを使用したキウイワインを販売中! 8面
- 三鷹図書館(本館)春のガーデンカフェ 8面

三鷹市山本有三記念館リニューアルオープン



南側外観

北側外観

「三鷹は私にとって忘れがたい土地である」— 有三



階段



イングルヌック(暖炉を囲む小部屋)

4月1日(日)から一般公開



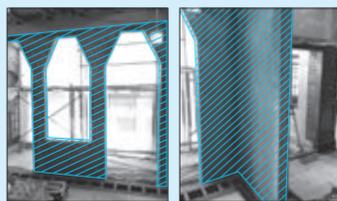
◆山本有三(1887~1974年)プロフィール
栃木県出身。東京帝国大学卒。大正時代に劇作家として出発。その後小説に進み、三鷹の地で代表作『路傍の石』や戯曲『米百俵』などを執筆。また、平易な国語の実現や憲法の口語化にも尽くした。昭和33年三鷹市名誉市民に推挙、昭和40年文化勲章受章。

作家・山本有三の自邸であった山本有三記念館は、レンガ造りの美しい外観、煙突や暖炉、ステンドグラスをあしらった階段などが特徴的な、大正ロマンを今に伝える本格的な洋風建築です。しかし、大正末期の建造から90年を超え、外壁が剥がれ落ちるなどの老朽化が進んでいました。そこで、来館者の安全を確保するとともに、市の重要な指定有形文化財として末永く保存活用を図っていくため、このたび改修工事を実施しました。

装いを新たにした同記念館へ、ぜひ足をお運びください。
☎芸術文化センター ☎47-9100

主な改修内容

- 鉄筋コンクリート耐震補強壁による構造補強(写真)
- 東側と南側の煙突・雨どいなどの補修
- 外壁の塗り替え・補修 など



新たに設置した耐震補強壁(斜線部分)

山本有三記念館リニューアルオープン記念企画展

「山本有三、作家の遍歴」

4月1日(日)~9月2日(日)

作家だけにとどまらない多彩な活動に注目し、その「遍歴」が晩年の執筆活動へどう結実したのかを探ります。

リニューアルオープンした同記念館で、明治・大正・昭和という三つの時代を生きた有三の足跡を数々の自筆原稿や初版本とともに楽しみください。



「波」初版本

自筆原稿

あたたかいご支援・ご協力ありがとうございました

同記念館の保存・改修工事では、平成29年12月1日~30年2月28日の期間で「クラウドファンディング」を実施し、当初の目標額だった300万円を大きく上回る5,185,189円(市内・市外合わせて114件)のご寄付をいただきました。

集まったご寄付はすべて同記念館の保存・改修工事の費用に充てさせていただきます。

市長コラム

父親の育児は

三鷹市長 清原慶子

地域と社会の役に立つ

3月6日に少人数の市民の皆様と市長が語り合う「第84回市長と語り合う会」を開催し、3歳までのお子さんの子育てをしている8名のお父さんと語り合いました。そのうち4名のお父さんは、2人目のお子さんの子育ての際には、育児休業あるいは育児休暇の制度を利用されたとのことでした。

4名のお父さんにより、最初のお子さんが誕生したときは母親である妻に育児を任せたいけれど、1人目より年齢も増すとともに上の子もいて忙しい妻を支えて、夫婦一緒に子育てをするために制度を活用され、育児への責任感と喜びを感じることができたそうです。8名のお父さんは、育児を通して仕事以外の地域や社会とのつながりを実感し、ご自身が「育メン」だけではなく「域メン」であることを意識したとのことでした。

三鷹市では、父親の育児を支援する事業を進めており、その一つが今年1月・2月に2回にわたって開催した「育メンスタート講座」です。助産師会の皆様との共催で、乳児を育てているお父さんを対象に、赤ちゃんと一緒に参加していただき、子育てのヒントを提供するとともに、子育ての心構えや育児を通して妻との関係の大切さを再確認していただいています。

また、3月4日には市民企画委員と協働して「ライフ・ワーク・バランス推進のための講座」を開催しました。第1部は「育児は仕事の役に立つ」「ワンオペ育児」から「チーム育児」への著者の浜屋祐子さんに夫婦や地域で取り組む「チーム育児」についてお話しいただき、第2部はシングルファーザーの労働・子育てジャーナリストの吉田大樹さんに「パパの働き方が社会を変える」というお話をしていただきました(写真)。

いよいよ新学期を迎えます。子どもたちは、保護者だけではなく地域の皆様によって見守られています。「ライフ・ワーク・バランス」と「男女平等参画」の視点に立ち、祖父母世代の「育じい」も「育ばあ」も活躍する多世代参加によって、安全に安心して子どもたちがすくすくと育つことを目指す「子ども子育て支援のまちづくり」を進めていきたいと思います。



ライフ・ワーク・バランス推進のための市民協働講座の講師の浜屋祐子さんと吉田大樹さんとともに(市長は右端)

市長のひとことコーナー

ケーブルテレビの広報番組「みるみる三鷹」では「市長のひとことコーナー」を放送しています(放送時間は8面参照)。